

STAGE+を楽しむ(129)(HP 収載)
—ツィメルマンのベートーヴェンピアノ協奏曲—

1. 始めに

前報(128)に引き続き、STAGE+のバーンスタインとツィメルマンのベートーヴェンピアノ協奏曲の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、バーンスタインとツィメルマンのベートーヴェンピアノ協奏曲の演奏を選びました。

バーンスタインとツィメルマンのベートーヴェンピアノ協奏曲全集
ウィーンフィル

収録日: 1991年12月11日

ベートーヴェンのピアノ協奏曲は、ウィーン古典派における最も重要な作品群のひとつであり、彼の初期から中期までの創作活動の過程を記録しています。バーンスタインは、指揮者の最後の主要な録音プロジェクトの1つとして、ツィメルマンとこの5曲を共演することを計画。結局、彼が1990年10月に亡くなる前に録音されたのは最後の3つの協奏曲だけとなり、ツィメルマンは、最初の2つの協奏曲を自ら指揮することになりました。その結果、この全曲録音は、他に類を見ないほど美しく、感動的なものとなったのです。

ソリスト:

クリスチャン・ツィメルマン (ピアノ)

演奏:

ウィーンフィルハーモニー管弦楽団

指揮:

レナード・バーンスタイン

曲目:

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン

ピアノ協奏曲第1番ハ長調 op. 15

ピアノ協奏曲第2番変ロ長調 op. 19

ピアノ協奏曲第3番ハ短調 op. 37

ピアノ協奏曲第4番ト長調 op. 58

ピアノ協奏曲第5番変ホ長調 op. 73 《皇帝》



3. 試聴の経過

前回に引き続き、スピーカーアキュライザーの位置を変更し、スピーカーアキュライザーからのバイワイアリングケーブルにケーブルチューナーを装着し、ルーター→スイッチングハブ→PCの2本のLANケーブルにLANアキュライザーを使用しています。さらに、スイッチングハブに光城精工の仮想アース Crstal EpL を接続し、ルーターに自作の仮想アースを接続しています。

1991の収録ですが、音はさほどよくありません。

1番と2番はツィメルマンの弾き振りで、3番と4番と5番はバーンスタインの指揮となります。

若いツィメルマンの演奏は、強靱な打鍵で力強いベートーヴェンを表現しています。ウィーンフィルも華麗な演奏でツィメルマンのピアノと対話します。

音はさほどよくありませんが、ツィメルマンの強烈な個性あふれる演奏とウィーンフィルも華麗な演奏に引き込まれてしまいます。





4. まとめ

LAN アクキュライザーと Crstal EpL の効果により、収録の音はさほどよくありませんが、ツィメルマンの強烈な個性あふれる演奏とウィーンフィルも華麗な演奏が伝わってきます。

以上